



3月のほけんだより



令和7年 2月28日配信 滝尾保育園

暖かい日が少しずつ増えてきました。春が待ち遠しいですね。子ども達はこの1年で、見違えるほど大きく、たくましく成長しました。これからも、それぞれのペースで、成長していく姿を見守っていきます。

今年度も1年、子ども達の健康管理にご理解・ご協力頂き本当にありがとうございました。

進級・進学を控えて

気持ちが不安定になる時期です

新年度を控え、多くの子ども達が「1つ大きくなる」という喜びでいっぱいな時期です。しかし、嬉しい半面初めてのことに對して、気持ちが不安定になる子どももいます。今までなかったのに下記のような様子が見られたら、何かストレスを感じていることがないか、注意してみましょう。

- 指しゃぶり・爪かみ
- どもり
- 目をパチパチさせる
- 咳払いする
- 肩をびくっと動かす ……など

気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。

「3月3日」耳の日 知っておきたい耳の異常のサイン

3月3日は3（み）3（み）にちなんで「耳の日」。子どもは風邪などの感染症から耳のトラブルを起こすことがしばしばあります。早く対応できるよう、耳の病気や聞こえの異常のサインを知っておきましょう。

耳の病気

子どもが風邪をひいて鼻水が出ているのを放っておくと、鼻水の中にウイルスや細菌が繁殖し、耳管を通って中耳に侵入して中耳炎を起こすことがよくあります。中耳の中で炎症が起こってうみがたまり熱を出すことや、鼓膜を圧迫するため強い痛みが起こります。また、鼓膜が破れてうみ（耳だれ）が出ることも。

発熱など、風邪の症状に加えて……

- ・しきりに耳を触る、頭を振る
- ・耳に触られるといやがる

痛みや違和感のために、耳を触ったり、頭を振ったりします。また、痛みのためにきげんが悪くなったり、夜なかなか寝なくなったりします。



聞こえの異常

聞こえの異常（難聴）には、生まれつき聴力が弱い場合と、病気が原因となっている場合があります。

難聴の原因となる病気は？

滲出性中耳炎

急性中耳炎が治りきらないと、中耳にサラサラとした液（滲出液）がたまります。痛みや発熱などの症状がないため、発見が遅れることがあります。

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）

原因となるウイルスが内耳（音を感じる部分）に感染して、難聴を起こします。流行性耳下腺炎の予防接種を受けて、感染を防ぐことが重要です。

聞こえの異常は、言葉の育ちにも影響します。子どもは「聞こえにくい」ことに気づきにくく、正確に言えません。聞こえにくいサインを知って、早めに気づくことが大事です。

子どもの

テレビの音が大きい

テレビの音を、必要以上に大きくします。



後ろから呼んでも気づかない

後ろから名前を呼んでも振り向かなかったり、返事をしなかったりします。左右差がある場合もあります。